

2021年度 3月終了 修士論文

親子のスポーツ消費行動に関する分析
民間フィットネスクラブ空手スクールに着目して

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科
スポーツ科学専攻 スポーツマネジメントコース

5021A303-1

阿部 夕姫

研究指導教員： 間野 義之 教授

目次

第1章	研究の背景	3
	1-1 フィットネスクラブにおけるスクール事業の需要	
	1-2 子供スクール事業	
	1-3 スポーツ消費	
第2章	先行研究	5
	2-1 先行研究の検討	
	2-2 プロダクトの定義	
第3章	研究目的	6
第4章	研究方法	6
	4-1 本研究の対象となる空手スクールの概要	
	4-2 予備調査	
	4-3 本調査	
	4-4 分析の手順	
第5章	結果	9
	5-1 調査対象者の属性と特性	
	5-2 因子分析	
	5-3 プロダクト構造因子の内的整合性の検討と機能検討・相関関係	
	5-4 重回帰分析	
第6章	考察	19
第7章	結論	20
第8章	研究の限界	20
引用・参考文献		21

第1章 研究の背景

1-1 フィットネスクラブにおけるスクール事業の需要

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大（以後、新型コロナ）は、今なお社会的・経済的に多大な影響を及ぼしている。フィットネス産業もその煽りを受けて苦戦を強いられている。経済産業省の特定サービス産業動態統計調査(2021年10月確報)¹⁾によれば、フィットネスクラブ会員合計について2018年が3,365,183人、2019年が3,362,965人であったのに対し、新型コロナ以後である2020年は2,689,796人、2021年(10月)は2,585,385人とコロナ禍で会員が減少している。(表1)

フィットネスクラブの会員は、フィットネスクラブ会員とスクール会員に分類されている。スクール会員は、2018年には850,923人、2019年には866,666人と全会員のおよそ4分の1をしめている。新型コロナ流行以降、この割合は増加している。2020年には、801,556人、2021年(10月)には833,610人がスクールに所属しており、全体のおよそ3分の1を占める。そして、2019年と2020年を比較すると、フィットネスクラブ会員は約30%の減少に対し、スクール会員は約10%の減少に止まっている。この数字をみると、スクール会員は新型コロナ以後に会員数を減らしてはいる。しかし、全体の割合としてはフィットネス会員よりも、新型コロナの影響を受けていないのではないかと予測できる。また、2019年と2021年の各会員区分での会員数を比較すると全体では77%、フィットネス会員だけでは70%、一方でスクール会員は96%となっている。つまりスクール会員は新型コロナ以前の会員数に戻りつつあるということが言える。

このことを考えると、今後のフィットネス産業の発展にはスクール事業は大きな役割を担うだろう。

表1 フィットネスクラブ会員動向

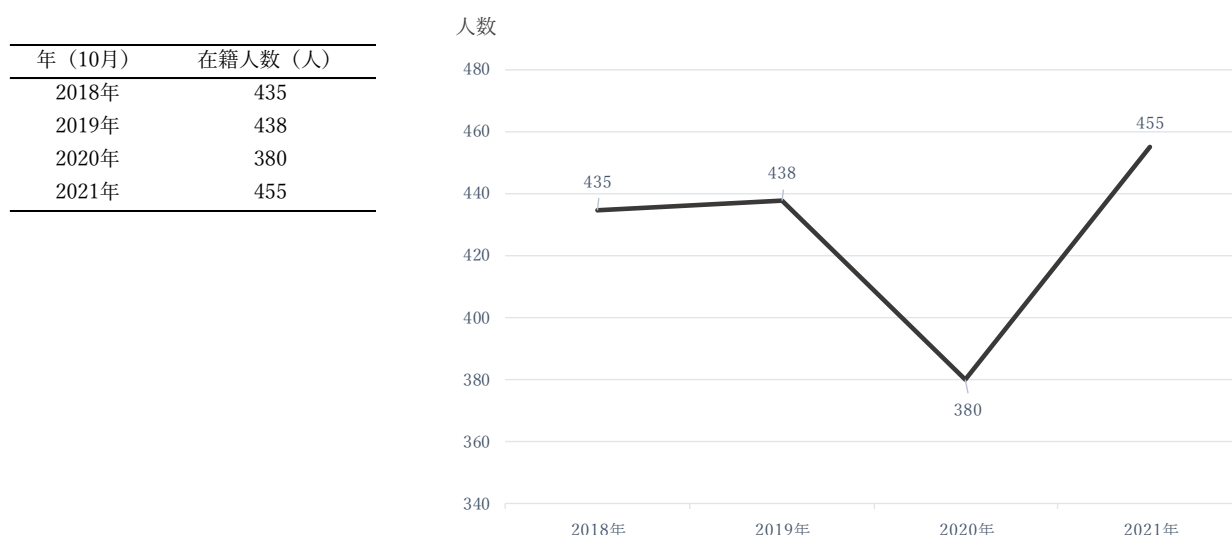
年・月	会員数 合計 (人)	フィットネスクラブ会員	
		フィットネスクラブ会員 (人)	スクール会員 (人)
2018年	3,365,183	2,514,260	850,923
2019年	3,362,965	2,496,299	866,666
2020年	2,689,796	1,888,240	801,556
2021年10月	2,585,385	1,751,775	833,610
2019年との比較	77%	70%	96%

経済産業省 特定サービス産業動態統計調査 (2021年10月確報)¹⁾

1-2 子供スクール事業

スクール事業は各年代向けに様々な内容で展開されている。その中でも子供を対象としたスクール事業は需要が多く、特に保護者からの強い支持を得ている²⁾。全国に21店舗構える総合型のフィットネスクラブ（プール・ジム・スタジオ・入浴施設・シャワー設備などを併設したクラブ）の一つであるAフィットネスクラブも、ジュニアスクールとして子供を対象としたスクール事業を展開している。プログラムは水泳、体操、空手、ダンス、バレエ、ゴルフ、テニスなどである。同クラブも新型コロナの影響を受け、2020年にジュニアスクールの会員は減少した。空手スクールに着目してみると、2019年まで440名ほどをキープしていた会員は2020年には380名まで落ち込んでいる。（表2、図1）しかし、2021年には455名になり、2019年を超える人数となった。この現象は、コロナ渦での子供の居場所作りや、持て余した時間のために習い事をさせたい保護者が増えたと考えられ、家庭における習い事需要が増加傾向にある事³⁾と関連していると予想する。しかし、増加傾向であるとはいえ、結局は新型コロナ以前の数字に戻っただけである。そのためフィットネスクラブ全体で考えたときに、子供のスクール会員を新規獲得または維持継続させることは、クラブ本体の売り上げ貢献につながると考える。

表2、図1 Aフィットネスクラブ 空手スクール会員動向



1-3 スポーツ消費者

子供を対象としたスクール事業とはどのようなものなのか。高田ら⁴⁾は、フィットネスクラブはフィットネスプロダクトを通して人々に提供され、レッスンや指導が中心であることから「サービス製品」という特長を有していると指摘している。その概念に当てはめると子供を対象としたスクール事業も「サービス製品」として考えることができる。スクールに入会することは「サービス製品」を購入すること、スクールを継続することは「サービス製品」を消費することになる。また、子供のスポーツ継続には重要な他者の影響があり、重要な他者は保護者であることが多い⁵⁾⁶⁾。そのため、子供のマーケットは本人の意思だけでは成り立っておらず、お金を出すのは親であるが、実際に実施するのは子供といったように複雑である。

そもそもスポーツ消費者とは、金、時間、そしてエネルギーを費やして、スポーツを「する」また

は「みる」という形態で体験し、身体的および心理的な無形のベネフィットを獲得する者を指す⁷⁾。そして、吉田⁸⁾は、そのベネフィットの獲得を目的としてスポーツを消費する個人であり、最終消費財としてのスポーツプロダクトを直接的に消費するエンドユーザーを指すと続けている。では、子供を対象としたときのエンドユーザーとは誰か。「保護者を通した子供」や「親を通した子供」、もしくは「両者」などと予測すると、二重構造になっているのではないかと考える。したがって、親と子供の双方の視点から、スクール事業のプロダクトを検証することが重要である。

本研究では、子供を対象としたスクール事業の一つである「空手スクール」に着目し、どのようなサービスプロダクトが提供されているかを明らかにする。そのうえで、継続することや満足度、推奨意向にどのように影響しているかを検証する。

第2章 先行研究

2-1 先行研究の検討

サービスプロダクトやスポーツプロダクトの品質、価値などにおいて、プロダクトを構造化する研究は多くなされている。高田ら⁴⁾は、「フィットネスクラブの製品とは」、「フィットネスクラブは何を売っているのか」という疑問に踏まえ、システム及びサービスとして配慮しなければならない事項を、P. Kotler¹³⁾の5次元製品概念に基づいて検討した。そして、フィットネスクラブの理念的構造を明らかにし、プロダクトの構造を実態化させた。また、その構造が満足度にどう影響しているかを検証し、満足度を高めるためには、会員同士、スタッフと会員のコミュニケーション、プログラムの充実、立地条件が重要であると結論づけた。

小野里ら⁹⁾は、テニススクールのレッスンにおけるスポーツプロダクトを構造化し、満足度との関係性を明らかにした。そしてテニスにおけるベネフィット・セグメントは総合的な満足度との関係において有効な基準であることを明らかにした。

子供の消費行動に関して、Flurry¹⁰⁾は、子供が自分の消費のために購入するときの影響力は時代により変化しており、子供の影響力がより強くなってきている。それは自分自身だけではなく、家族の共有製品にまで影響を及ぼしている。そのことは、子供が将来の消費者として形作られ、これまでより早い年齢で製品を認識することを意味しており、自分自身で製品を要求し購入するようになる」と示唆している。

B. Christine ら¹¹⁾は、子供がスポーツ体験を購入するという決定において、親の関与を5つの変数から検証した。モデル1は、子供のスポーツ体験に対する親の満足度が、そのプログラムを提供する組織に対する親の関与のレベルを高めることにつながる。モデル2は、より熱心な親はスポーツにより多くのお金を費やし、ほかの人にそれを推奨しようとする。モデル3は、スポーツ組織の観点から、組織に対する親の関与は不可欠である。モデル4は、親もその組織の場にコミュニティや存在を求めている。そして、親は子どものために子供のスポーツ体験を購入しているという観点から、子どもが満足することによって、親も満足感を得ているのではないかと予測している。

森藤¹²⁾は、教育サービスにおける家族内意思決定を類型化し、それまでは「父親主導型意思決定」「母親主導型意思決定」の2類型だったものを、「子供尊重型意思決定」を追加し3類型を導き出した。「父親主導型」の特徴は子供の教育に父親の関心が高いことがあげられた。「母親主導型」の特徴は子供の教育に父親の関与が低いこと、就学の早い段階で意思決定に介入していることがあげられた。「子供尊重型」の特徴は子供の意思決定を待ち、父親と母親の関わりはその意思決定を支援するあるいは促すことを目的に行われていた。情報探索の主体は子供であり、子供が情報収集をおこな

うよう親がうながしている。そのサポートは母親が行うことが多い。また、家庭内意思決定における家族構成員の役割は時代によって変化すると示唆している。家庭内意思決定を理解するうえで、母親の位置づけが重要であり、家庭内意思決定における子供の役割はインターネットの普及と関連があると示唆された。さらに、核家族における一人当たりの子供の存在感が高まっており、子供の家庭内意思決定への影響が増していると述べた。

先行研究から、子供のスポーツスクールの消費行動については、保護者と子供の両者を変数としてみなければいけないと考える。また大人のプロダクトの構造と満足度との関係性は明らかにされているが、子供が対象となり保護者との関係性が加味されたときにどのような結果がでるのかは明らかにされていない。そのため、家庭内の意思決定に関する先行研究を加えて考えることで、現代では子供尊重型の意思決定がされ、プロダクトの構造にも影響を与える。さらに、子供の満足度は親の満足度にも影響を与えるのではないかと予測できる。

2-2 プロダクトの定義

プロダクトとは商品の品質、またそれを受けることでの便益やベネフィットである。しかし松岡⁷⁾は、スポーツ組織によって生産されるプロダクトは、自動車のように形があって直接手で触れることのできる「物財」ではなく、形がなく手で触れることができない「サービス財」と述べている。本研究では、スクール事業である空手スクールに着目し分析をおこなう。空手スクール事業のプロダクトは、空手というスポーツのプロダクトの一面も持つが、大枠でとらえるとサービスのプロダクトである。ここでは、プロダクトは、レッスン内容をはじめ、施設自体、指導者、指導方法、接客、スタッフ、スクールの仕組み、製品（空手道衣や防具）など多様な側面から構成されていると考える。

第3章 研究目的

本研究では、フィットネスクラブのスクール事業である空手スクールに着目し、空手スクールを受講している子供とその保護者を対象に、子供と保護者それぞれが求めるプロダクトの因子構造を明らかにする。そして、親子のプロダクトが継続意思や満足度、推奨意向にどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的とする。

第4章 研究方法

4-1 本研究の対象となる空手スクールの概要

空手スクールの理念は「楽しく面白く礼儀正しく」である。練習時間は週1回1時間。級が上がる、帯が変わるなどの目標設定があり、達成する喜びを楽しく学んでもらえるよう、褒める型指導でレッスンは行われる。昇級・昇段制度は、0級からスタートし12級から1級まで級が上がるごとに帯の色が変わる。その後昇段審査にて初段から五段まであり昇級昇段審査は半年に1回行われる。5級までは基本と形をおこない、4級以上で組手が導入される。対象は5歳から15歳（中学3年生）までの商品である。

4-2 予備調査

保護者と子供における空手スクールのプロダクト構造を分析する項目を作成するにあたり予備調査をおこなった。予備調査は都内に3店舗空手スクールを導入しているBフィットネスクラブの親と子供102組に自由記述式の調査を行った。また、親5名、子供5名にインタビュー調査を行った。質問紙の回収数は58枚であった。質問紙とインタビューで得られたワード(表3)から30項目ずつを本調査の質問項目とした。

4-3 本調査

本調査では、①基本属性・対象者の特性(保護者の続柄・性別・年代・家族構成・スポーツ経験、子供の性別・年齢、学年、始めたきっかけ、他スポーツの習い事の有無)、②予備調査で設定した空手スクールの施設やサービス、レッスン内容に関するプロダクト評価を親と子供30項目ずつ、③保護者と子供の意思決定に関する設問をそれぞれに2項目ずつ、④継続意思、満足度、推奨意向に関する評価で構成した。

②と③に関しては「1=全くそう思わない」「2=あまりそう思わない」「3=そう思わない」「4=どちらとも言えない」「5=そう思う」「6=かなりそう思う」「7=非常にそう思う」の7件法による評定を求めた。先行研究では5件法を用いていることが多かったが、対象が現在在籍中の親及び子供のため天井効果を危惧し7件法とした。また、④の継続意思、満足度、推奨意向に関する設問に関しては従属変数として使用するため「1=全くそう思わない」「2=あまりそう思わない」「3=ややそう思わない」「4=そう思わない」「5=どちらとも言えない」「6=そう思う」「7=ややそう思う」「8=かなりそう思う」「9=非常にそう思う」の9件法を採用した。また、子供に対する設問は、回答が困難な場合は親に補佐してもらうよう記載した。①は保護者が回答、②の保護者設問Aの30項目は保護者が回答・子供設問Bの30項目は子供が回答、③保護者設問Cの2項目は保護者が回答・子供設問Dの2項目は子供が回答、④設問Eの3項目は保護者と子供の両方で考えて回答してもらった。分析にはIBM SPSS Statistics 28を使用した。調査は、関東地区の民間フィットネスクラブ17クラブの保護者と子供およそ1,500組を対象に質問紙を配布し、822組の回答を得た。そのうち、回答能力が低いと考えられる未就学児と、高校生は除外した。(スクール生の対象は基本中学生までとなっているため高校生はイレギュラー在籍のため)さらに未回答があるものを除外した709組の回答を分析に用いた。調査実施期間は2021年12月1日から26日であった。(表4)

4-4 分析の手順

まずは①において保護者と子供合わせて709組の基本的属性を整理し、対象者全体の特性を把握した。次に②、③、④に関して記述統計により平均値、標準偏差を算出し、得点分布を確認した。特に天井効果の有無などの確認を行った。

その後、プロダクト評価の30項目に対して保護者と子供それぞれに主因子法・プロマックス回転を選択し因子分析をした。そして、それを確認するため内的整合性の検討、さらにt検定で男女差の検討、保護者と子供合わせた因子と④の継続意思、満足度、推奨意向の相関関係の検討を行った。

最後に継続意思、満足度、推奨意向とプロダクトの関係性を検証するため、④を従属変数、②を独立変数、さらに①と③を統制変数として加え重回帰分析を行った。

表3 予備調査ワードのまとめ

コード	説明	ワード
保護者	家族 子供との時間や会話	会話が増えた、子供が形を教えてくれる、兄弟で空手の話をしている、新しい形の話をする、会話がふえた、先生の面白話をすぐする
	期待 空手スクールに期待すること	体力をつけてほしい、あいさつ、答えがしっかりできるようになってほしい、学校以外の学び、学校以外の楽しさを先生に教えてもらいたい、継続してほしい、メンタル、学校以外の人間関係づくり、目標をもってほしい
	教育 教育方針や自身の経験からの保護者考え方	本人が嫌がってないうちは習わせる、運動時間の確保、いじめられても対応できるように、運動は継続してほしい、自分もやっていたから、みんながやっているスポーツではなく、違うものをやらせたかった、体力づくり、運動習慣、自分も空手をやっていた
	変化 子供の変化や成長 目に見えてわかること	忍耐力がつく、いやなことは嫌と言えるようになった、集中力がでた、身体が柔らかくなった、子供が視野が広がった、自身をもてる、姉に負けないようになった、しっかりしてきた、黒帯を自慢される
	施設 施設やアクセス クラブの制度に関する	通える範囲、時間帯、プールに通っていたから習いやすい、近所、家から近い、スタジオがきれい、クラブのアフタースクールがよい、他のプログラムと併用できるのがよい、学校帰りにまっすぐ1人で通ってくれる、自宅からあるいていける、見学のいすが欲しい、バスの送迎がある、スタッフの対応、送迎の手間がない、近くに道場があったが体験しにくかった、清潔な空間
	自分 時間活用 習い事することでの自分のメリット	私がプールできる、子供が練習しているとき、私はトレーニングしている、自分（保護者自身）の興味が増した、子供が打ち込んでいる姿をみるのは楽しい、自分もやりたくなった、自分も空手のことを知ることになった、練習しているときに、お母さん同士で話をする、幼稚園から一緒にママ友4人、子供を見るのが楽しい、級が上がるごとに自信がついてるようで、みるとうれしい、先生と帰りに話するのがストレスの発散、
	制度 進級したり、帯が変わったりすること 練習の内容	黒帯、組手が4級から、習い事としての頻度がよい、他道場と比べるとゆるい感じがするが、それが子供にあっている、段位取得、合格の基準、週1回1時間、形を覚えるシステムは子供の成長にいい
	先生 先生について	先生の印象が良い、先生とのコミュニケーション、わかりやすさ、丁寧な指導、力強く愛情ある指導、子供は先生のことが好きだと思う、楽しく厳しく指導してほしい、
	武道 武道へのイメージや、武道ならではの	武道、礼儀・礼節、精神力、忍耐力がつく、武道をならわせない、挨拶、護身術、女の子なので自分の身を守る事ができれば、家族や友達を守る、最近物騒
	費用 料金について	防具が高い、剣道は防具とかでお金かかりそうだったから
子供	あこがれ 強くなることへのあこがれ テレビアニメの影響は広告宣伝効果でもある	コナンの蘭ちゃん、黒帯のお姉さんが好き、鬼滅になりたい、オリンピック、強い方がかっこいい、道衣がかっこいい
	希望 期待や希望・目標達成について	強くなって困っている人、弱い人を守りたい、達成感を感じたい、組手の練習、グローブほしい、いろんな形を教えてほしい、プールをやっているときに空手をよくみていた、水色帯になりたい、将来道衣をつくる人になりたい、自分や他の人を守れると思うまでやる、空手の大会で入賞する
	興味 種目への興味や評価、武道への興味も入る	組手をやっていると楽しい、形が面白い、移動基本はつらい、時間が短い、試合楽しい、審査緊張する、将来留学するため日本の武道を学んでおきたい
	仲間 人との交流についての項目	仲間がいる、他の学校の友達がいるからうれしい、学校はたのしくあいから、友達との行きかえりが楽しい、友達と一緒に練習したい、茶帯のお姉さんがいつも帯を結んでくれる
	施設 練習環境について	スタジオではなく体育館の広いところがよい、鏡があるのがよい、鏡があるのがよい
	変化 空手をする中でどのような変化があったか、 自分自身が感じる点	警戒心が強くなった、強くなった、身体が柔らかくなった、力がついた、自信、動いてはいけないときに我慢できるようになった、姿勢がよくなった、形を覚えて記憶力があがった、挨拶をしたら褒められた
	先生 先生に対する感想	先生が怒ったあとも笑わせてくれる、かっこいい、指導がわかりやすい、きちんと指導してくれる、厳しいけど楽しいときはすごく楽しい、優しい、先生が好き、怒らないから安心、先生が強い
	発散 希望でもあるがストレス発散の要素もある	突きがしたい、突きが決まるとすっきりする、キックが楽しい、ミットをやりたい

表 4 質問紙 設問項目

①保護者と子供の 属性・特性	親が回答	子供の性別	男 女
	子供との続柄	父,母,祖父,祖母,その他	記述式
	年代	20代以下,30代,40代,50代,60代以上	未就学,低学年,高学年,中学,高校
	家族構成	記述式	記述式
	保護者スポーツ経験	ある ない	未就学,低学年,高学年,中学,高校
		始めた年齢	記述式
②プロダクト評価	保護者回答	子供回答	
	A1_子供が精神的に成長できる	B1_身体が変化する（強くなる、身体が柔らかくなる）	
	A2_子供に身体的変化がある（強くなる、身体が柔らかくなる）	B2_ストレスの発散ができる	
	A3_子供のストレス発散になる	B3_形を覚えることができる	
	A4_子供との時間ができる	B4_組手の練習ができる	
	A5_子供が楽しそうに練習をしている	B5_級があがる	
全くそう思わない 1 ） 非常にそう思う 7	A6_練習または審査で子供の成長を見ることができる	B6_昇級審査、昇段審査がある	
	A7_挨拶ができるようになる	B7_試合に出場することが出来る	
	A8_返事ができるようになる	B8_先生の指導がわかりやすい	
	A9_自分のプライベートな時間が確保できる	B9_帯の色が変わる	
	A10_家族の会話が増える	B10_先生がカッコ良い	
	A11_身を守ることができるようになる	B11_他校の友達が出来ると	
③統制変数	A12_保護者同士の繋がりができる	B12_自信につながる	
	A13_個々の能力が評価される	B13_レッスンが楽しい	
	A14_社会性や協調性が身につく	B14_身を守ることができる	
	A15_先生が接しやすい	B15_大切な人を守ることができる	
	A16_学校では学べないことがある	B16_1回の練習時間がちょうどよい	
	A17_形と組手の2種目あるため様々な動きを学べる	B17_家族で空手の話ができる	
④従属変数	A18_武道であるから礼儀作法を学べる	B18_年上、年下の仲間と交流がもてる	
	A19_自分自身の興味が広がる	B19_学校とは違う楽しさがある	
	A20_指導の仕方に厳しさと楽しさのメリハリがある	B20_武道なので礼儀作法を学ぶことができる	
	A21_運動量の多い練習である	B21_空手をやっていることを自慢できる	
	A22_昇級・昇段のシステムがある	B22_空手衣がカッコ良い	
	A23_回の練習時間がちょうどよい	B23_防具をつけて練習ができる	
全くそう思わない 1 ） 非常にそう思う 9	A24_色々な学年の子供と接することができる	B24_個人競技のため個人の能力が評価される	
	A25_クラブ内でのスクールのため安心安全である	B25_挨拶ができるようになる	
	A26_通いやすい	B26_先生に褒められる	
	A27_月会費がちょうどよい	B27_練習しやすい場所である	
	A28_先生の変更がないので安心である	B28_通いやすい	
	A29_他のスクールと併用ができる	B29_先生が変更しないので安心である	
⑤統制変数	A30_スタッフの接客が良い	B30_形と組手の両方があるため色々な動きができる	
	C1_継続や退会に関して、家族内での意思決定について	D1_自分のやりたい事について	
	保護者の決定力が非常に強い1～子供の決定力が非常に強い7	全て保護者が決める1～全て自分で決める7	
	C2_お子様の性格について	D2_空手教室に通うことについて	
	意思が非常に強い1～意思が非常に弱い7	保護者の意思が非常に強い1～自分の意思が非常に強い7	
	保護者・子供、両方で回答		
全くそう思わない 1 ） 非常にそう思う 9	E1_空手教室は出来るだけ長く継続したい・継続してもらいたい	→「継続意思」を意味する	
	E2_空手教室を習ってよかった習わせてよかった	→「満足度」を意味する	
	E3_他の人へ空手教室をすすめた	→「推奨意向」を意味する	

第 5 章 研究結果

5-1 調査対象者の属性と特性

(1)親

回答者の続柄について、「父」「母」「祖父」「祖母」「その他」での選択方式にした。しかし 709 名中 2 名が「祖母」、1 名が「祖父」その他は「父」と「母」であったため、「男性＝父・祖父」「女性＝母・祖母」と性別としてまとめた。また、これ以降は保護者については「親」と記す。親の男女比は、女性が 82.8%、男性 17.2%と圧倒的に女性が多い割合をしめている。年代では、40 代が 1 番多く 60.4%、次いで 30 代が 29.9%、50 代が 7.3%、20 代以下が 2.1%、60 代以上が 0.3%となっている。家族構成では、自由記述として回答してもらい、「両親兄弟姉妹あり」「両親兄弟姉妹なし」「1

人親兄弟姉妹あり」「1人兄弟姉妹なし」「その他兄弟あり」「その他兄弟なし」の6グループに分別したところ、「その他兄弟あり」のグループが存在しなかったため「その他」とし5グループにした。その結果、「両親兄弟姉妹あり」が64.3%、「両親兄弟姉妹なし」が23.7%、「一人親兄弟姉妹なし」が9.6%、「一人親兄弟姉妹あり」が2.3%、「その他」が0.1%であった。親のスポーツ経験については「ある」が61.2%、「ない」が38.8%であった。(表5)

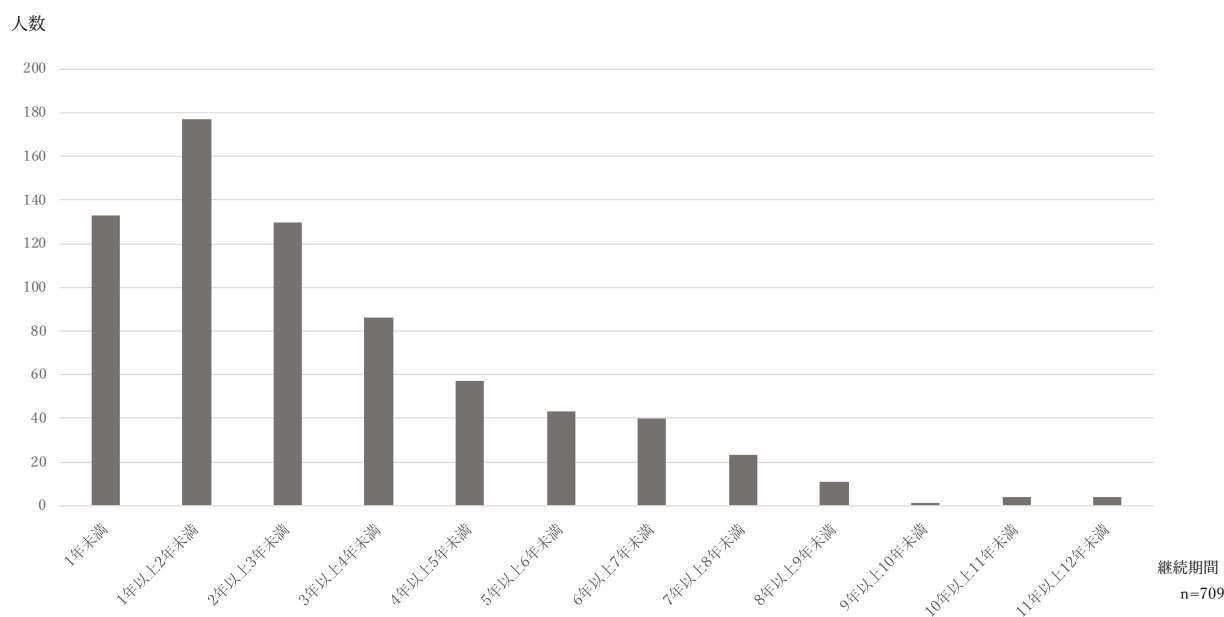
(2)子供

子供の男女比は、「男性」が79.1%、「女性」20.9%と男性が圧倒的に多い。また、子供の学年については、「低学年」が半数以上の64.6%「高学年」が27.9%、「中学生が」27.9%であった。始めたきっかけについては、自ら始めた子供が81.7%と多く、ほとんどが自分で興味を持ち空手を始めたことがわかる。他のスポーツ実施状況については、61.7%が「はい」と回答しており半数以上が空手以外にもスポーツをしていることがわかった。最後に継続期間については、「1年未満」18.8%、「1年以上2年未満」が25.0%、「2年以上3年未満」18.3%と3年未満までの子供が62.1%半数を超えていた。(表5, 図2)

表5 属性と特性

		n=709				n=709	
		f	%			f	%
保護者の性別	男性	122	17.2	始めたきっかけ	自ら	579	81.7
	女性	587	82.8		勧められて	130	18.3
		709	100				
保護者の年代	20代以下	15	2.1	子供の他スポーツ実施	はい	434	61.2
	30代	212	29.9		いいえ	275	38.8
	40代	428	60.4	子供の学年	高学年	198	27.9
	50代	52	7.3		中学生	53	7.5
	60代以上	2	0.3		低学年	458	64.6
家族構成	両親兄弟姉妹あり	456	64.3	継続期間	1年未満	133	18.8
	両親兄弟姉妹なし	168	23.7		1年以上2年未満	177	25.0
	一人親兄弟姉妹あり	16	2.3		2年以上3年未満	130	18.3
	一人親兄弟姉妹なし	68	9.6		3年以上4年未満	86	12.1
	その他	1	0.1		4年以上5年未満	57	8.0
保護者のスポーツ経験	ある	486	68.5		5年以上6年未満	43	6.1
	ない	223	31.5		6年以上7年未満	40	5.6
子供の性別	男	561	79.1		7年以上8年未満	23	3.2
	女	148	20.9		8年以上9年未満	11	1.6
					9年以上10年未満	1	0.1
					10年以上11年未満	4	0.6
					11年以上12年未満	4	0.6

図2 子供の空手スクール継続期間



5-2 因子分析

まずは、親のプロダクト評価に関する 30 項目と、子供に関するプロダクト評価 30 項目の平均値と標準偏差(SD)を算出し得点分布を確認した。(表 6) いくつかの項目で平均+SD7.00 以上と天井効果と考えられる偏りが見られた。しかし対象者が現在空手スクールに在籍中であることから評価はある程度の偏りがあると予測していたため、全ての項目を以降の分析の対象とした。

また因子分析をするにあたり、因子負荷量に関しては、除外する項目を選択する基準を設けた。基準は負荷量 0.40 に満たない負荷量項目、そして 0.40 以上であっても 0.30 以上の項目が重複している場合その項目を除外とした。その基準により、以下の因子分析では半数近く項目を除外したが、この因子分析は因子の構造を確認しながらも、後に尺度としての構成・開発を想定しているため基準を厳しくした。

(1) 親

親のプロダクト評価の 30 項目に対して主因子法・Promax 回転による因子分析を行い、基準に満たない項目を除外した。初回では 9 項目を除外し、再度主因子法・Promax 回転による因子分析を行った。固有値 1.0 以上を基準とすると 3 因子が妥当であると考えられた。そこで 3 因子と仮定して主因子法・Promax 回転による因子分析を再度行った。そして、負荷量の基準にて項目をさらに除外した 21 項目に再度主因子法・Promax 回転による因子分析を行った。その結果、4 項目が除外され、16 項目 3 因子が抽出された。抽出後の 3 因子で 16 項目の全分散を説明する割合は 46.68%であった。

抽出された第 1 因子は 9 項目で構成され、「クラブ内のスクールであるため安心安全である」「1 回の練習時間がちょうどよ」などが高い負荷量を示した。これらはフィットネスクラブ内空手スクールというサービスプロダクトの質についての項目であることから、親・第 1 因子を「サービスの質」

と因子を命名した。第2因子は3項目で構成されており「返事ができるようになる」「挨拶ができるようになる」など空手を習うことでの子供の変化や成長に関する項目が高い負荷量を示した。そこで親・第2因子は「教育効果」因子と命名した。第3因子は4項目で構成され、「子供との時間ができる」「保護者同士のつながりができる」などが高い負荷量を示した。これらは親自身が受けている便益に関する項目であることから、親・第3因子は「親のベネフィット」と命名した。(表7)

(2) 子供

続いて、子供のプロダクト評価に関する30項目に対して主因子法・Promax回転による因子分析を行った。この時点で固有値1.0以上の因子は6因子であった。項目を選択する基準にて11項目を除外し、再度主因子法・Promax回転による因子分析を行ったところ、1項目が除外され固有値1.0以上の因子が4因子18項目抽出された。しかし負荷量の基準を満たしているが、項目間に解釈困難な因子が存在することから4因子の採用は不适当と判断した。そこで初回に行った因子分析の負荷量を再度確認した。設定している負荷量の基準を満たしていない項目を除外した上で、1つの因子に2項目以上が属している因子を確認すると5因子であった。そのため5因子と仮定して、主因子法・Promax回転による因子分析を行った。その結果、11項目が除外され19項目5因子が抽出された。抽出後の5因子で19項目の全分散を説明する割合は56.11%であった。

抽出された第1因子は「レッスンが楽しい」「先生がカッコよい」などのレッスンを受けることでの楽しさや喜びに関する項目が高い負荷量を示した。そこで、子・第1因子を「レッスン効果」と命名した。第2因子は、「級があがる」「昇級審査、昇段審査がある」などグレードアップすることや、目標を達成することに関する項目に高い負荷量を示した。そこで、子・第2因子を「達成感」と命名した。第3因子は「防具をつけて練習ができる」「組手の練習ができる」などに高い負荷量を示した。空手には形と組手の2種目がある。形は基本1人で練習をするが、組手は対人練習となるため相手がいないと練習できない。また大会においても、相手を必要とする。そのため対人に関する項目であるため子・第3因子を「種目特性」と命名した。第4因子は「年上、年下の仲間と交流がもてる」「他校の友達ができる」に高い負荷量を示した。そこで友達との交流に関する項目として子・第4因子「社交」と命名した。第5因子は「身を守ることができる」「大切な人を守ることができる」で、護身術であるという空手の特性に関する項目に高い負荷量を示した。そこで子・第5因子を「護身」と命名した。(表8)

この親子の因子分析により、プロダクト構造を説明する親子合わせて8因子が抽出された。

表6 プロダクト評価の得点分布表

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	平均-SD	平均+SD
A1_子供が精神的に成長できる	709	2	7	5.56	0.96	4.60	6.52
A2_子供に身体的変化がある（強くなる、身体が柔らかくなる）	709	1	7	5.40	0.95	4.45	6.36
A3_子供のストレス発散になる	709	1	7	5.20	1.07	4.13	6.27
A4_子供との時間ができる	709	1	7	4.41	1.22	3.19	5.63
A5_子供が楽しそうに練習をしている	709	1	7	5.60	1.10	4.50	6.70
A6_練習または審査で子供の成長を見ることができる	709	1	7	5.91	1.10	4.81	7.01
A7_挨拶ができるようになる	709	1	7	5.30	1.12	4.18	6.42
A8_返事ができるようになる	709	1	7	5.17	1.12	4.05	6.29
A9_自分のプライベートな時間が確保できる	709	1	7	3.93	1.33	2.60	5.25
A10_家族の会話が増える	709	1	7	4.98	1.02	3.97	6.00
A11_身を守ることができるようになる	709	1	7	4.98	1.12	3.86	6.11
A12_保護者同士の繋がりができる	709	1	7	3.82	1.51	2.31	5.33
A13_個々の能力が評価される	709	1	7	5.28	1.07	4.21	6.35
A14_社会性や協調性が身につく	709	1	7	5.19	1.01	4.18	6.20
A15_先生が接しやすい	709	1	7	5.80	1.12	4.68	6.92
A16_学校では学べないことがある	709	2	7	5.98	0.89	5.08	6.87
A17_形と組手の2種類あるため様々な動きを学べる	709	1	7	5.33	1.19	4.14	6.52
A18_武道であるから礼儀作法を学べる	709	1	7	5.71	1.04	4.66	6.75
A19_自分自身の興味が広がる	709	1	7	5.38	0.97	4.41	6.35
A20_指導の仕方に厳しさと楽しさのメリハリがある	709	1	7	5.64	1.07	4.57	6.71
A21_運動量の多い練習である	709	1	7	4.80	1.13	3.67	5.93
A22_昇級・昇段のシステムがある	709	3	7	5.79	0.95	4.85	6.74
A23_1回の練習時間がちょうどよい	709	1	7	5.32	1.12	4.19	6.44
A24_色々な学年の子供と接することができる	709	2	7	5.51	0.95	4.56	6.46
A25_クラブ内のスクールであるため安心安全である	709	4	7	5.83	0.88	4.95	6.71
A26_通いやすい	709	1	7	5.55	1.17	4.38	6.72
A27_月会費がちょうどよい	709	1	7	4.64	1.28	3.36	5.92
A28_先生の変更がないので安心である	709	1	7	5.74	1.17	4.57	6.91
A29_他のスクールと併用ができる	709	1	7	5.00	1.12	3.88	6.12
A30_スタッフの接客が良い	709	1	7	5.50	1.04	4.46	6.53
B1_身体が変化する（強くなる、身体が柔らかくなる）	709	1	7	5.39	1.16	4.24	6.55
B2_ストレスの発散ができる	709	1	7	4.85	1.55	3.30	6.41
B3_形を覚えることができる	709	2	7	6.03	0.94	5.09	6.97
B4_組手の練習ができる	709	1	7	4.73	1.67	3.06	6.40
B5_級があがる	709	1	7	5.97	1.04	4.93	7.01
B6_昇級審査、昇段審査がある	709	1	7	5.97	1.09	4.88	7.06
B7_試合に出場することが出来る	709	1	7	4.22	1.75	2.47	5.97
B8_先生の指導がわかりやすい	709	1	7	6.08	1.01	5.08	7.09
B9_帯の色が変わる	709	1	7	6.03	1.08	4.95	7.10
B10_先生がカッコ良い	709	1	7	5.83	1.30	4.53	7.13
B11_他校の友達が出来ると	709	1	7	5.32	1.51	3.81	6.83
B12_自信につながる	709	1	7	5.62	1.14	4.48	6.76
B13_レッスンが楽しい	709	1	7	5.89	1.15	4.74	7.04
B14_身を守ることができる	709	1	7	5.42	1.24	4.18	6.66
B15_大切な人を守ることができる	709	1	7	5.15	1.39	3.76	6.54
B16_1回の練習時間がちょうどよい	709	1	7	5.40	1.35	4.05	6.75
B17_家族で空手の話ができる	709	1	7	5.37	1.40	3.97	6.77
B18_年上、年下の仲間と交流がもてる	709	1	7	5.38	1.38	4.00	6.75
B19_学校とは違う楽しさがある	709	1	7	5.81	1.23	4.58	7.04
B20_武道なので礼儀作法を学ぶことができる	709	1	7	5.71	1.13	4.58	6.84
B21_空手をやっていることを自慢できる	709	1	7	5.10	1.60	3.50	6.70
B22_空手衣がカッコ良い	709	1	7	5.69	1.32	4.37	7.00
B23_防具をつけて練習ができる	709	1	7	4.25	1.71	2.55	5.96
B24_個人競技のため個人の能力が評価される	709	1	7	5.25	1.24	4.01	6.48
B25_挨拶ができるようになる	709	1	7	5.64	1.20	4.44	6.85
B26_先生に褒められる	709	1	7	5.31	1.28	4.03	6.59
B27_練習しやすい場所である	709	1	7	5.77	1.16	4.61	6.93
B28_通いやすい	709	1	7	5.70	1.31	4.39	7.00
B29_先生が変更しないので安心である	709	1	7	5.93	1.24	4.69	7.16
B30_形と組手の両方があるため色々な動きができる	709	1	7	5.47	1.40	4.07	6.87
C1_継続や退会に関して、家庭内での意思決定について	709	1	7	4.83	1.52	3.31	6.34
C2_お子様の性格について	709	1	7	4.72	1.31	3.40	6.03
D1_自分のことについて	709	1	7	4.90	1.37	3.53	6.27
D2_空手教室に通うことについて	709	1	7	5.41	1.54	3.87	6.95
E1_空手教室は出来るだけ長く継続したい・継続してもらいたい	709	2	9	7.51	1.28	6.23	8.79
E2_空手教室を習ってよかった・習わせてよかった	709	4	9	7.73	1.16	6.57	8.89
E3_他の人へ空手教室をすすめたい	709	1	9	6.69	1.58	5.12	8.27

表 7 親の因子分析結果

	I サービスの質 ($\alpha=.85$)	II 教育効果 ($\alpha=.85$)	III 親のベネフィット 共通性 ($\alpha=.70$)	
A25_クラブ内のスクールであるため安心安全である	.86	-.06	-.03	.66
A23_1回の練習時間がちょうどよい	.67	-.01	-.16	.37
A26_通いやすい	.65	-.08	-.04	.34
A22_昇級・昇段のシステムがある	.65	.11	-.16	.42
A30_スタッフの接客が良い	.59	.06	-.04	.37
A27_月会費がちょうどよい	.56	-.09	.12	.32
A24_色々な学年の子供と接することができる	.54	-.08	.17	.35
A28_先生の変更がないので安心である	.54	.09	.11	.45
A15_先生が接しやすい	.44	.21	.13	.47
A8_返事ができるようになる	-.07	.99	-.07	.82
A7_挨拶ができるようになる	-.04	.97	-.04	.85
A1_子供が精神的に成長できる	.23	.40	.15	.46
A4_子供との時間ができる	-.07	.12	.67	.51
A12_保護者同士の繋がりができる	-.04	-.07	.63	.33
A9_自分のプライベートな時間が確保できる	-.06	-.13	.58	.23
A10_家族の会話が増える	.08	.14	.57	.51
因子相関行列				
サービスの質	1.00			
教育効果	.62	1.00		
親のベネフィット	.51	.64	1.00	
除外された項目				
A2_子供に身体的変化がある（強くなる、身体が柔らかくなる）				
A3_子供のストレス発散になる				
A5_子供が楽しそうに練習をしている				
A6_練習または審査で子供の成長を見ることができる				
A11_身を守ることができるようになる				
A13_個々の能力が評価される				
A16_学校では学べないことがある				
A14_社会性や協調性が身につく				
A17_形と組手の2種目あるため様々な動きを学べる				
A18_武道であるから礼儀作法を学べる				
A19_自分自身の興味が広がる				
A20_指導の仕方に厳しさと楽しさのメリハリがある				
A21_運動量の多い練習である				
A29_他のスクールと併用ができる				

表 8 子の因子分析結果

	I レッスン効果 ($\alpha=.88$)	II 達成感 ($\alpha=.85$)	III 種目特性 ($\alpha=.77$)	IV 社交 ($\alpha=.74$)	V 護身 ($\alpha=.80$)	共通性
B13_レッスンが楽しい	.82	-.05	-.04	.02	.00	.62
B10_先生がカッコ良い	.75	-.04	-.02	-.07	-.07	.41
B27_練習しやすい場所である	.74	-.02	.03	-.03	.04	.56
B29_先生が変更しないので安心である	.69	.04	-.05	-.01	-.03	.45
B28_通いやすい	.66	-.04	.01	-.11	.09	.41
B19_学校とは違う楽しさがある	.63	-.02	.06	.22	-.05	.57
B8_先生の指導がわかりやすい	.60	.19	-.07	.11	-.03	.54
B26_先生に褒められる	.53	-.05	.20	.01	.10	.47
B5_級があがる	-.09	.95	.06	-.03	.04	.86
B6_昇級審査、昇段審査がある	-.10	.88	.03	.03	-.05	.70
B9_帯の色が変わる	.18	.70	-.03	-.01	-.06	.59
B3_形を覚えることができる	.29	.41	-.05	-.02	.13	.44
B23_防具をつけて練習ができる	.03	-.06	.94	-.02	-.10	.78
B4_組手の練習ができる	-.06	.08	.71	.00	.09	.59
B7_試合に出場することが出来る	.01	.06	.53	.02	.02	.32
B18_年上、年下の仲間と交流がもてる	-.10	-.02	.00	.99	.04	.91
B11_他校の友達が出来る	.09	.02	-.01	.58	-.04	.39
B14_身を守ることができる	.01	.00	-.04	-.04	.95	.83
B15_大切な人を守ることができる	.06	-.04	.05	.08	.66	.56
因子相関行列						
レッスン効果	1.00					
達成感	.52	1.00				
種目特性	.39	.36	1.00			
社交	.57	.39	.36	1.00		
護身	.62	.40	.45	.44	1.00	
除外された項目						
B1_身体が変化する（強くなる、身体が柔らかくなる）						
B2_ストレスの発散ができる						
B12_自信につながる						
B16_1回の練習時間がちょうどよい						
B17_家族で空手の話ができる						
B20_武道なので礼儀作法を学ぶことができる						
B21_空手をやっていることを自慢できる						
B22_空手衣がカッコ良い						
B24_個人競技のため個人の能力が評価される						
B25_挨拶ができるようになる						
B30_形と組手の両方があるため色々な動きができる						

5-3 プロダクト構造因子の内的整合性の検討と機能検討・相関関係

親3因子構造、子5因子構造の因子分析結果をふまえて、各因子の内的整合性の検討と、t検定による男女差の比較、相関関係の検討を行った。まず内的整合性の検討として α 係数を算出したところ、親第1因子で $\alpha=0.85$ 、親第2因子で $\alpha=0.85$ 、親第3因子で $\alpha=0.70$ 、子第1因子で $\alpha=0.88$ 、子第2因子で $\alpha=0.85$ 、子第3因子で $\alpha=0.77$ 、子第4因子で $\alpha=0.74$ 、子第5因子で $\alpha=0.80$ とまずまずの値が得られた。(表7,8)次に親子のプロダクト構造の各因子において、男女の下位尺度得点差をt検定において検討した。その結果、親子8因子中、親・第1因子のみに5%水準で有意な差がみられ、男性よりも女性の方が高い得点となっている。これは、親・第1因子「サービスの質」においては親の男女差によってその因子が果たす機能は異なり、その他の因子は男女間で変化しないと示された。(表9)

また、親子のプロダクト構造の各因子に加え、以降の重回帰分析で用いる「継続意思」「満足度」「推奨意向」を含めた相互相関を算出したところ、継続意思と子3因子「種目特性」は5%水準で有意な相関であった。その他は全て1%水準で正の有意な相関がみられた。(表10)

表9 t検による男女の得点差

	男性		女性		t 値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
親Ⅰ: サービスの質	5.37	.73	5.55	.72	-2.57 *
親Ⅱ: 教育効果	5.31	1.08	5.35	.91	-.42
親Ⅲ: 親のベネフィット	4.16	.89	4.31	.92	-1.64
子Ⅰ: レッスン効果	5.80	.89	5.75	.89	.66
子Ⅱ: 達成感	5.98	.89	6.05	.76	-.88
子Ⅲ: 種目特性	4.41	1.43	4.38	1.36	.22
子Ⅳ: 社交	5.36	1.29	5.32	1.29	.33
子Ⅴ: 護身	5.48	.93	5.58	.89	-1.24

* $p < .05$

表10 プロダクト評価と継続意思・満足度・推奨意向の相互関係

	親Ⅰ	親Ⅱ	親Ⅲ	子Ⅰ	子Ⅱ	子Ⅲ	子Ⅳ	子Ⅴ	E1	E2	E3
親Ⅰ: サービスの質	—										
親Ⅱ: 教育効果	.577**	—									
親Ⅲ: 親のベネフィット	.381**	.501**	—								
子Ⅰ: レッスン効果	.496**	.413**	.298**	—							
子Ⅱ: 達成感	.385**	.247**	.135**	.519**	—						
子Ⅲ: 種目特性	.194**	.218**	.330**	.354**	.338**	—					
子Ⅳ: 社交	.260**	.159**	.232**	.478**	.334**	.278**	—				
子Ⅴ: 護身	.732**	.683**	.486**	.467**	.259**	.195**	.237**	—			
E1_継続意思	.365**	.292**	.220**	.458**	.334**	.080*	.217**	.392**	—		
E2_満足度	.423**	.315**	.201**	.500**	.384**	.120**	.279**	.432**	.673**	—	
E3_推奨意向	.402**	.313**	.258**	.440**	.274**	.140**	.311**	.399**	.468**	.579**	—

* $p < .05$, ** $p < .01$

5-4 重回帰分析

親のプロダクト構造と子のプロダクト構造の各因子を「親子」のプロダクト構造因子にとらえ、「継続意思」「満足度」「推奨意向」にどのような影響を与えているかを明らかにするために、「継続意思」「満足度」「推奨意向」に従属変数とし、プロダクト構造の各因子を独立変数として重回帰分析を行った。その際に、統制変数として基本属性・特性を加え強制投入法により分析を行った。(表 11)

その結果、決定係数(R^2)はそれぞれ「継続意思」は 0.30、「満足度」は 0.35、「推奨意向」は 0.31 であった。また有意確率は 3 項目すべて 0.1%水準で有意であった。(表 12)

表 11 重回帰分析 変数の説明

従属変数	E1_空手教室は出来るだけ長く継続したい・継続してもらいたい	継続意思	
	E2_空手教室を習ってよかった・習わせてよかった	満足度	全くそう思わない 1 ～ 非常にそう思う 9
	E3_他の人へ空手教室をすすめたい	推奨意向	
独立変数	親Ⅰ: サービスの質		
	親Ⅱ: 教育効果		
	親Ⅲ: 親のベネフィット		
	子Ⅰ: レッスン効果		
	子Ⅱ: 達成感		
	子Ⅲ: 種目特性		
	子Ⅳ: 社交		
	子Ⅴ: 護身		
統制変数	C1_継続や退会に関して、家庭内での意思決定について	保護者の決定力が非常に強い 1 ～ 子供の決定力が非常に強い	
	C2_お子様の性格について	意思が非常に強い 1 ～ 意思が非常に弱い 7	
	D1_自分のことについて	全て保護者が決める 1 ～ 全て自分で決める 7	
	D2_空手教室に通うことについて	保護者の意思が非常に強い 1 ～ 保護者の意思が非常に弱い 7	
	両親兄弟姉妹ありD		
	両親兄弟姉妹なしD		
	一人親兄弟姉妹ありD	ダミー変数	ベース「その他」=祖父祖母兄弟なし
	一人親兄弟姉妹なしD		
	低学年D		
	高学年D	ダミー変数	ベース「中学生」
	保護者の性別	男=1 女=0	
	保護者のスポーツ経験	ある=1 ない=0	
	子供の性別	男=1 女=0	
	継続期間		
	空手を始めたきっかけ	自ら=1 勧められて=0	
	子供の他スポーツ実施	ある=1 ない=0	

表 12 重回帰分析の結果

変数	継続意思	満足度	推奨意向
	β	β	β
独立変数			
親Ⅰ: サービスの質	.026	.080	.138 **
親Ⅱ: 教育効果	-.023	-.023	.017
親Ⅲ: 親のベネフィット	.054	-.009	.034
子Ⅰ: レッスン効果	.305 ***	.301 ***	.240 ***
子Ⅱ: 達成感	.140 ***	.154 ***	.036
子Ⅲ: 種目特性	-.128 **	-.121 **	-.055
子Ⅳ: 社交	-.011	.054	.129 ***
子Ⅴ: 護身	.194 ***	.221 ***	.136 *
統制変数			
C1	.062	.000	-.002
C2	.002	.021	-.071
D1	-.025	.038	-.022
D2	.044	-.014	.004
両親兄弟姉妹ありD	-.182	-.071	-.202
両親兄弟姉妹なしD	-.110	-.044	-.211
一人親兄弟姉妹ありD	-.073	-.025	-.147
一人親兄弟姉妹なしD	-.062	-.063	-.035
低学年D	.197	-.016	.182
高学年D	.136	.028	.191
子供との続柄	-.060	.001	-.042
保護者のスポーツ経験	.004	.033	.029
子供の性別	-.024	-.054	-.027
継続期間	.055	.008	.031
空手を始めたきっかけ	.019	.011	.027
子供の他スポーツ実施	-.024	-.054	-.114
R^2 乗	.30 ***	.35 ***	.31 ***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$,

(1) 継続意思

プロダクト構造の各因子が継続意思に与える影響は、子因子「レッスン効果」「達成感」「護身」が 0.1%水準で有意となり正の影響だった。また子因子「種目特性」は 1%水準で有意となり、継続意思に対して負の影響を示した。さらに標準化係数 β が大きい方が与える影響が大きいことから、正の影響に関しては「レッスン効果」「護身」「達成感」「種目特性」の順で継続意思に影響を与えている。

(2) 満足度

プロダクト構造の各因子が満足度に与える影響は、子因子「レッスン効果」「達成感」「護身」が0.1%水準で有意となり正の影響だった。また子因子「種目特性」は1%水準で有意となり、満足度に対して負の影響を示した。さらに標準化係数 β が大きい方が与える影響が大きいことから、正の影響に関しては「レッスン効果」「護身」「達成感」「種目特性」の順で満足度に影響を与えている。

(3) 推奨意向

プロダクト構造の各因子が推奨意向に与える影響は、子因子「レッスン効果」「社交」が0.1%水準で有意だった。また親因子「サービスの質」が1%水準で有意となり、子因子「護身」が5%水準で有意で、正の影響を示した。さらに標準化係数 β が大きい方が与える影響が大きいことから、「レッスン効果」「サービスの質」「護身」「交流」の順で推奨意向に正の影響を与えている。

第6章 考察

継続意思と満足度、推奨意向は調査時に親と子供両方で考えて回答してもらった。重回帰分析の結果から、「レッスン効果」「達成感」「種目特性」「護身」の子供の因子のみが、継続意思と満足度に影響を与えている。それは、親子間での意思決定では子供が得ている便益によって意思決定がなされていると考えられる。分析時に意思決定の変数にて統制されていることから、「子供の便益」が尊重されていると解釈できる。子供が特定の便益を受けることを親が重要視しているため、子供を通して継続意思や満足度に繋がっているということである。このことは、藤森¹²⁾が従来の母親主導型・父親主導型に子供尊重型意思決定を追加したことを示唆している。

また、子因子の「種目特性」では負の影響が示されている。「種目特性」は、防具、組手、試合についての項目である。対象とした空手スクールは、週1回1時間の練習で、試合で勝つ競技性よりも、楽しく1時間身体を動かすことをコンセプトとしているため、実際に試合に出場している子供は全体の20%ほどである。また加えて、組手に関しては4級以上（初めて3年ほど）からの導入であり、対象とならない子供には想像ができなかったことや、怪我のリスクへの懸念から負の関連が見られたと考えられる。

推奨意向には親因子「サービスの質」子因子「レッスン効果」「社交」「護身」が影響を与えている。ここで、親がスクール自体に感じるベネフィットや製品の質が推奨意向に関わってきている。加藤¹⁴⁾は、推奨意向とは個人の感情で完結する満足度や継続意思に比べて、心理的な障壁が高く、他人に推奨するほどの確信を有している顧客はロイヤリティの現れである。そして一般的に満足と推奨意向は「顧客は満足を得ることで推奨意向が高まる」という関係で扱われると述べている。このことを考慮すると、親も何かしらの形で満足している可能性があると考ええる。それは、先行研究にもあったように、親は子供のために子供のスポーツ体験を購入しているという観点から、子どもが満足することによって親も満足感を得ているのではないかという B. Christine ら¹¹⁾の予測につながる。例えば、子供がベネフィット享受していることを親が認識しており、意思決定の際に潜在的に影響しているという可能性があると考ええる。また、推奨意向にだけ有意を示した子因子「社交」の存在も興味深い。子因子「社交」の構成項目は「仲間との交流」「友達ができる」である。空手は個人競技であるため、競技の特性として組手の練習以外でのコミュニケーションは団体競技よりもとりにくい。しかしながら人との交流やコミュニティを求めている社交意識の高い子供が推奨意向を強く示したことは、クラス内での交流が高まれば推奨意向にも高く影響するのではないかと予測できる。

最後にこの結果をより実践的なレベルでマーケティングに生かすためには、継続意思と満足度に影響を与えている因子は、基本既存会員へのアプローチに繋がる。つまり現在いる会員により長く

空手スクールを消費してもらい、2,3年で辞めてしまう会員をいかに継続してもらうかにかかってくる。一方で推奨意向に影響を与えている因子は、推奨意向いわゆる新規獲得のためのサービスプロダクトとなる。友達を紹介、親の友達を紹介、その子供が入会するといったように0を1にするプロダクトといえよう。そして継続意思や満足度が子供の便益に委ねられているのであれば、子因子である「レッスン効果」の構成項目であるレッスンは楽しく、先生はカッコよく、わかりやすい指導をし、たくさん褒める等を強化する必要がある。さらに、新規獲得には、「レッスン効果」に加え、親が感じている「サービスの質」において満足度を高めることやクラス内での交流、仲間意識を強く持たせることが効果的であると考えられる。

第7章 結論

本研究では親と子供それぞれが求めるプロダクトの因子構造が、親「サービスの質」「教育効果」「親のベネフィット」の3因子、子供「レッスン効果」「達成感」「種目特性」「社交」「護身」の5因子であることが明らかになった。さらに、そのプロダクト因子が親子の意思決定与える影響として、継続意思・満足度には、「レッスン効果」「護身」「達成感」「種目特性」順に子因子のみが影響を与えていた。そして、推奨意向には子因子「レッスン効果」親因子「サービスの質」子因子「護身」「社交」の順で影響を与えており、全ての意思決定において子因子「レッスン効果」が一番強い影響を与えることが明らかとなった。

第8章 研究の限界

今回の調査では、子供の対象者を小学1年生以上とした。しかし、小学1,2年生の回答能力を考慮すると、設問の量、内容が対象にみあっていなかったと懸念する。当初1,2年生を除外することも検討したが、低学年の子供が64.6%と半数以上を占めていた。そのため、サンプル数を確保するため除外せず分析を進めた。そのことにより因子分析での因子のまとまりや解釈が不十分であったと考える。低学年が多い商品であると認識していれば、設問の量を調整し、わかりやすい文章や文字で作成することが必要であった。また、本研究では空手スクールに限定をして分析をおこなった。スクール事業には水泳や体操など他にもプログラムがある中で、子供スクールの全体像と親子の意思決定の関係を、空手スクールのみで一般化することは疑問が残る。さらに、在籍中の子供と親であるため、基本は満足しているから在籍しているといった背景があることや、回答に同意した者のみが回答していることから、回答者のバイアスがかかっていることも考えられる。子供の意向が全面に出ている部分についても、その事を踏まえた上での解釈となっている。以上のことから、サンプルの整合性に関しては問題が残る。さらに、保護者の性別に関して、父親と母親での役割が違うことも考え性別を分けたが、消費している保護者（親）と考えた時には、分けずに検証する必要がある。M. Robert¹⁵⁾らは、子供と親の意思決定プロセスと消費行動に関する有効で信頼できるデータを収集することは難しいと述べている。しかしながら、家族の購入決定における影響力としての子供の役割は、マーケティングの観点からも重要とされる¹⁵⁾ことから、今後さらなる研究の積み重ねが必要である。

引用・参考文献

- 1) 経済産業省 特定サービス産業動態統計調査 (2021 年 10 月確報)
- 2) 石川智, 齊藤麗 ; 民間スポーツクラブにおける保護者の満足度とベネフィット属性評価の関係
作新学院大学紀要, Vol.10. pp.211-221, 2020.
- 3) PRTIMES オンネラおうちラボ, 2021「子どもの習い事に関する調査」
[https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000009.000062174.html](https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/0000000009.000062174.html) (最終閲覧 2021 年 1 月 4 日)
- 4) 高田順子, 畑攻, 小野里真弓 ; フィットネスクラブにおけるサービスプロダクトの再構築
日本女子体育大学大学, Vol.33, pp71-79, 2004.
- 5) 金美珍, 小林正子 ; 青少年期における運動継続要因の検討-日本と韓国の大学生を対象にして-,
Vol. 85, pp.67-79, 2019.
- 6) 住田健, 藤本淳也 ; 青少年の運動・スポーツ実施の有無に影響を与える要因:スポーツ社会化の
概念を援用して, スポーツと人間:静岡産業大学論集, Vol.11, No.1, pp27-35, 2017.
- 7) 松岡宏高 ; スポーツマネジメントの概念の再検討, スポーツマネジメント研究, Vol.1, No.1,
pp.33-45, 2010.
- 8) 吉田政幸 ; スポーツ消費者行動, スポーツマネジメント研究, Vo.3, No.1, pp.5-21, 2011.
- 9) 小野里真弓, 畑攻, 水上雅子 ; テニスレッスンにおけるベネフィット, セグメンテーションに関
する研究, 日本女子体育大学紀要, Vol.32, 2002.
- 10) Laura A. Flurry ; Children's influence in family decision - making: the impact of the changing
American family, Vol.60, No.4, pp.322-330.2007.
- 11) B. Christine Green & Laurence Chalip ; Antecedents and consequences of parental purchase
decision involvement in youth sport, An Interdisciplinary Journal, Vol.20, 1998.
- 12) 森藤ちひろ ; 教育サービスにおける家族内意思決定: 子供の進路に関する質的研究 (長谷川
豪志名誉教授記念号), 京都産業大学マネジメント・レビュー, Vol.25, pp61-83, 2014.
- 13) P. Kotler, Kevin Lane Keller, (恩蔵直人 監修, 月谷真紀 訳) コトラー&ケラーのマーケティング・
マネジメント基本編 第3版, ピアソン・エデュケーション, 2002.
- 14) 加藤拓巳 ; サービスを対象とした市場調査における年代別の推奨意向の回答傾向, 一般社団法人
経営情報学会, 2020.
- 15) Mary Lou Robert, Lawrence H. Wortzel, Robert L. Berkeley ; Mothers' Attitudes and perceptions
of children's Influence and Their Effect on Family Consumption, NA-Advances in consumer Research,
Vol.8, 1981.
- 16) 要弥由美, 中島祥子, 吉里ちさ子・濱中誠 ; 統計は怖くない! 分析を前提としたアンケートと
は? -因子分析のための質問紙の作り方入門-, 日本語教育学会 2009 年度研究会-第6回-実践
研究フォーラム報告.
- 17) 醍醐笑部, 木村和彦, 作野誠 ; ダンス映像のプロダクト構造分析: スポーツ鑑賞授業のための
基礎的考察, スポーツ経済学研究, 第19巻, 2016.
- 18) 小塩真司 ; 研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版, 東京図書株式
会社, 2020.